



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア・イスラエル：イスラエル軍のシリア空爆

5月初旬、イスラエル軍は2回にわたりシリア国内で空爆を行った模様である。

5月3日と5日に行われたとされる空爆について、イスラエルは公式にコメントしていない。シリア政府は、イスラエルの攻撃だとして非難している。メディアは、イスラエル筋、米国筋などの匿名筋の話を報道している。こうした報道を整理すると、先週、イランからヒズブッラー向けの地対地ミサイル（Fateh-110）がダマスカスに到着した。3日の空爆は、空港付近にあった同ミサイルが標的だった。5日の空爆も同ミサイルあるいは別のヒズブッラー向けの武器が標的だとされている。5日に空爆を受けたダマスカス近郊ジャムラーヤにある軍の研究所は、1月にも空爆されたといわれる。同施設が空爆された後、炎上、爆発しているとされる映像がインターネットで流された。

1月30日に行った空爆について、その後、イスラエル軍は沈黙していた。4月22日、アヤロン国防相は、米国のヘーゲル国防長官と会談した際に、レバノンへ武器を輸送していたとみられる車列をシリア領内で爆撃したことを認めた。イスラエル政府、軍関係者は、ヒズブッラーに高性能の武器が渡ることを阻止すると公言している。

イスラエルは、シリア内戦に干渉しない立場であるが、ヒズブッラー向けの武器輸送は阻止するとしている。イスラエルは、ヒズブッラー向けの武器輸送を、シリア領内で1回（1月の空爆）あるいは計3回攻撃したことになる。アサド政権も反体制派も、当面は、イスラエル軍のシリア領内での空爆に対処する余力はないだろう。しかし、攻撃が頻発すると、結果的には、イスラエルがシリア内戦に加担することになる可能性はゼロではない。

ゴラン高原は今のところ平静である。しかし、空爆前の時点で、イスラエル軍はゴラン高原での軍配備を強化していると報道されていた。4月30日には、予備役を動員した大規模な演習をイスラエル北部で実施している。イスラエル軍が、シリア軍あるいはヒズブッラーからの反撃を想定していたとすれば、今回の空爆はかなり準備された攻撃であり、イスラエル軍は本腰を入れてヒズブッラーへの武器輸送を阻止しようとしているのかもしれない。

（中島主席研究員）